


# 審査結果報告書

平成29年 / 月 / 17日

主査 氏名 竹内 康雄 

副査 氏名 坂本 尚登 

副査 氏名 狩野 有作 

副査 氏名 守屋 利佳 

1. 申請者氏名 : 千田 将馬

2. 論文テーマ : 2型糖尿病における腎症発症予測因子としての尿中アルブミン排泄率の有用性

3. 論文審査結果 : 尿中アルブミン排泄率は糖尿病性腎症の病期分類に用いられており国際的に汎用されている唯一の臨床バイオマーカーであるが、腎症進展の予測因子としての臨床的重要性に疑義が向けられている。しかし、現時点でも糖尿病性腎症の進展や糖尿病性腎症以外の腎疾患の発症経過の長期間観察研究は皆無で、尿中アルブミン排泄率の有用性を論じてきた大規模臨床研究のほぼすべてが、糖尿病患者のアルブミン尿の出現や腎機能の低下を観察したのみである。申請者は北里大学病院内分泌代謝内科に長期間にわたって通院治療を継続してきた腎機能正常の2型糖尿病のうち、非糖尿病性腎疾患を併存する可能性がある症例を除外した1760例において、尿中アルブミンが顕性アルブミン尿発症をどの程度正確に予測するかを後ろ向きコホート研究によって解析した。さらに、それぞれの顕性アルブミン尿の発症例が非糖尿病性腎疾患によるものかどうかについて診療録を用いて詳細に検討した。その結果、成人2型糖尿病において、非糖尿病性腎疾患を丁寧に除外したとき、初診時の尿中微量アルブミン値が高くなるほど、観察期間内に顕性アルブミン尿を発症する確率が増加し、2型糖尿病患者は経過中に非糖尿病性腎疾患を発症することが稀ではないことを明らかにした。この結果は、尿中アルブミン排泄率は現在、信じられているよりも正確な糖尿病性腎症の進展予測因子であることを示しており、研究の一部が2016年のScientific Reports誌に掲載された。公開審査では申請者による発表の後の副査および主査の広範な質問に対して、おおむね適切に回答し学識の高さを示した。副査および主査は学位論文の内容に加えて、質疑応答の適確さから、医学博士の学位に相応しいと判断した。